

## 認知症の初期症状をどのように見つけるか？ 地域での早期介入に向けた挑戦

作業療法学科 地域作業療法学領域 横山 和樹 講師



### Q. どのような研究をされていますか？

A. 我が国の高齢化率は世界1位であり、健康寿命の延伸に向けた取り組みが、作業療法でも求められています。特に65歳以上の6人に1人が認知症の診断を受けており、その予防が重要な課題となっています。身体活動や認知機能トレーニングなどが認知症の予防に重要だと言われてはいますが、私は作業療法の中で取り扱う「自分の生活の中で価値を感じる大切な活動に取り組むこと」に着目しています。認知症の初期段階では、抑うつやアパシー（無気力・無関心）などが出現し、大切な活動をやらなくなってしまう場合があります。このような問題に向き合うためには、ただ単に高齢者の実施している活動だけを聴取すればよいということではなく、「その活動にどのような目的や意味があるのか」「その活動が満足感や生きがいにどのように関係しているのか」など、高齢者の考えや思いも考慮することが重要です。このような主観的側面を含めて、認知症の初期症状に関連する要因を探ることで、作業療法の考え方を認知症の予防に役立てることを目指しています。

### Q. これまでどのような研究をされてきましたか？

A. 札幌市近郊に住む高齢者の方を対象に健康測定会を定期的を実施し、運動機能・認知機能・生活機能などをアセスメントし、認知症を予防するために必要なことをフィードバックしてきました。その中で、生産的活動に従事すること（Yokoyama et al., 2022）、自分のことを開示すること（Yokoyama et al., 2024, 2025）、大切な作業に取り組むこと（Shimada, Yokoyama et al., 2025）などが、抑うつやフレイルなどに関連しており、認知症の予防に重要な役割を果たすことを明らかにしました。健康測定会は、理学療法・作業療法学科の学部学生・大学院生、研究室のOB・OG、他大学所属の訪問研究員が参加し、研究・教育・社会貢献活動を一体的に実施しています。



図 健康測定会の実施

### Q. 将来の展望をお聞かせください。

A. 健診に足を運ぶことができる高齢者、健康への意識が高い高齢者は、予防に向けた健康行動をとることができますが、そうではない方もたくさんいらっしゃいます。特に、北海道は広域であるがゆえに、早期発見や早期介入に向けた必要な支援が行き届いていない現状です。このような地域においても、認知症の初期症状を発見し、早い段階から対策がとれるように、AIによる認知症やフレイルの早期発見や遠隔ケアなどの方法を開発し、その効果検証をした上で、認知症の支援に向けた仕組みづくりを北海道に実装することを目指します。

### もう少し知りたい！と思った方はこちらへ

- 作業療法学科 地域作業療法学領域 URL  
➡ [https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/health/course/ot/ot\\_chiiki.html](https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/health/course/ot/ot_chiiki.html)
- 大学院保健医療学研究科 理学療法学・作業療法学専攻 精神障害リハビリテーション学分野 URL  
➡ [https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/graduate/health/g\\_ptot/ahfmc0000002ws6.html](https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/graduate/health/g_ptot/ahfmc0000002ws6.html)
- 大学院保健医療学研究科 理学療法学・作業療法学専攻 地域生活科学分野 URL  
➡ [https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/graduate/health/g\\_ptot/community\\_and\\_human\\_life\\_science](https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/graduate/health/g_ptot/community_and_human_life_science)